

平成 30 年度 第 1 回三条市食育推進及び農業振興審議会 会議録(概要)

1 日 時 平成 30 年 7 月 18 日 (水) 午後 1 時 30 分から午後 3 時 30 分

2 会 場 三条市役所本庁舎 2 階大会議室

3 議 題

- (1) 計画の実施状況及びスケジュールについて
- (2) 成果指標の目標値の設定について

4 出席状況

(1) 出席委員

粟生田会長、阿部副会長、佐藤委員、金子委員、外山委員、小林委員、田代委員、星野委員、山寄委員、清野委員、高橋（豊）委員、高橋（敦）委員、宮島委員、山本委員

(2) 欠席委員

神田委員

(3) 事務局職員

近藤福祉保健部長

長谷川経済部長

健康づくり課 村上課長、小林室長、大泉主査、小柳主任

農林課 渡辺課長、藤家課長補佐、長谷部係長

(4) 傍聴者 なし

(5) 報道機関 なし

5 内 容

(1) 開 会 進行：粟生田会長

(2) あいさつ 近藤福祉保健部長

本日はお忙しい中、そして暑い中、三条市食育推進及び農業振興審議会に御出席いただき誠にありがとうございます。連日暑い日が続いておりますが、このような時こそ日々の食、それを支える農が本当に重要であると実感しているところでございます。三条市では平成 21 年 4 月に食と農の条例を制定させていただいております。「食と農で支える健幸なまち」を基本理念に掲げ、それに基づく計画ということ今で進めているところでございます。現計画につきましては、平成 28 年から 32 年の 5 年間でございます。今年ちょうど中間点、折り返し地点ということですので。条例の制定からもうすぐ 10 年を迎えますが、この計画の折り返し地点ということをつかまえて、基本に立ち返り、それぞれの事業の本来のあるべき姿を注視しながら進めていきたいと考えております。皆様方からは食と農の推進及び振興につきまして、お力添えをお願いすると共に、忌憚の

ない御意見をいただき、出来るところから事業に反映させていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(3) 委員等の紹介

(4) 議 題

ア 計画の実施状況及びスケジュールについて（資料No. 1、2 を使って食育部分を大泉主査、小柳主任、農業部分を藤家課長補佐が説明）

～食育部分の質疑～	
山寄委員	スマートミールの認証基準に地産地消は入っていないのか。
小柳主任	地産地消は認証基準にはないが、野菜が1食に140g以上使われているかどうかということが基準に入っている。
宮島委員	資料No. 1の指標について、同じくらいの数値が目標になっているが、実現可能な数値を出したのか、全国平均などから出したものなのか。
大泉主査	食育の推進と農業の進行に関する計画の31ページにある指標をこちらに載せさせていただいたものである。目標値については、これまでの取組の中で米飯を食べる人の推移をみてきた。その推移から、実現可能な数値を割り返して目標値として設定させていただいている。
高橋(敦)委員	指標は今どうなっているのか。
大泉主査	資料No. 3に平成29年度までの数値を示してありますので、そちらを御覧ください。
阿部副会長	資料No. 2のこっそり減塩作戦で昨年度取り組んだヘルシー和食弁当がありますが、これは1食あたり食塩相当量何gで出しているのか。
小柳主任	ヘルシー和食弁当は1食2.5gになるように調整させていただいている。
外山委員	資料No. 1の食文化の伝承の指導者育成講習会の実施について、食生活改善推進委員以外にも声をかけると説明があったが、どこを想定しているのか。
大泉主査	公民館等を通じて市内全域に声かけをさせていただきたいと考えている。
～食育部分の意見～	
阿部副会長	ヘルシー和食弁当は食塩2.5gとお聞きしたが、実際に食べてみるとしょっぱかった。店員にどういうお弁当かを聞くと、油や揚げ物を使っていないヘルシー弁当ですと言われ、減塩をしっかりと伝えていないのかと感じた。市と

<p>大泉主査</p>	<p>店側の考えにギャップがあるのではないか。せつかくやっていることなので、減塩をしっかりと伝えて、販売した方がよいと思った。</p> <p>この取組の周知をせずに惣菜を少しずつ減塩していくという趣旨についてはスーパーの社長さんから承知いただき、御理解いただいている。恐らく質問をされた方は店舗で販売をしている人かと思う。販売している店員の方にも周知をしていただくよう、再度お願いをしていきたい。お弁当の塩分が高く感じるとのことだったが、こちらについては半年ごとに塩分調査等を行い、味が段々濃くならないよう店に働きかけていきたいと考えている。</p>
<p>栗生田会長</p>	<p>良い政策があっても、末端で思想が浸透していないともったいないことになる。末端まで思想が伝わるような体制を今後構築していただきたい。</p>
<p>山寄委員</p>	<p>今回スケジュールがいろいろと載っているが、現場との温度差があった場合はどのように改善していくのか。コミュニティスクール推進事業の中では各学校から PTA の方や先生方を呼んでディスカッションやグループワークをやっている。今、学校や親が求めている食育というのは、食べることに對してよりも生産者に対する意見がすごく多い。やっていることは大事だと思うが、どこかで見直しをしないと、やりました、でも現場で本当に必要だったのかと聞かれた時に温度差があるのではないか。市としては見直しをどのように考えているのか。</p>
<p>大泉主査</p>	<p>基本はスケジュールに沿って行っていきたいと考えているが、審議会での意見を反映しながら進めていきたい。</p>
<p>清野委員</p>	<p>昨年の審議会でもほとんどの委員からこっそり減塩はこっそりしないでいいのではないかと意見が出ていたと思うが、そこはどう考えるのか。</p>
<p>大泉主査</p>	<p>前回の審議会でも御意見をいただいたところであるが、今年度あいだに新たに取り組み、それが落ち着く年度末を目途にどの商品とは言わず、このお店で減塩を行っていることを周知していきたいと考えている。</p>
<p>近藤福祉保健部長</p>	<p>減塩に対しては、説明したようにパンフレット等を使って啓発を行っているが、なかなかそれだけでは進まないため、いろいろな手法をとということで、自然に意識せずとも減塩になる仕組みという意味合いもこめてネーミングを「こっそり」と考えたものです。その点も御理解ください。</p>
<p>阿部副会長</p>	<p>減塩という言葉を使わずに、例えば、「ちょっと薄味でおいしい弁当」などもう少し工夫してもらいたい。ヘルシーと減塩は違うので、そこを一般市民</p>

	<p>に伝わるように周知してもらいたい。皆さん健康のことを考えているので、減塩といっても極端に嫌な人はいないと思う。せっかく良いパンフレットも作っているのに減塩が広く浸透するようにしてほしい。</p>
近藤福祉保健部長	<p>年度末に向けて事業の見せ方についても考えていきたい。</p>
小林委員	<p>食育の日が毎月 19 日、新たな視点でこの日に取り組むとあるが、具体的にはどのような視点を考えているのか。今までだと食育メールや給食だよりとある。私たちの世代だと給食だよりは貰わない。パソコンがなければメールも見ない。そういった中で、10 万の市民に食育の日を周知して、実践してもらうには新たな視点をとということだとは分かる。しかし、相当新たな視点で様々なツールを使わなければ浸透するということはない。具体的にはどのようなツールを使って周知するのか。</p>
大泉主査	<p>新たな視点での食育の日の活用ですが、これまでは食育メールや給食だより等で周知してきた。しかし、それだけだと見ていただく方が限られてしまう。市民の皆さんが目にするツールを考えると、広報さんじょうがいいのではないかと考えている。広報さんじょうを使って特集記事を作成し、周知していきたい。</p>
外山委員	<p>資料No.3 に進捗状況が書いてあるが、朝食の主食、お膳のかたちも 40 歳以上で数値が悪化している。食推も頑張っているところではあるが、この年代を頑張らないと高齢になった時の健康状態が悪くなるのが目に見えている。この年代を良くするために、何か施策があるのか聞かせてもらいたい。</p>
大泉主査	<p>確かに 40 歳以上の項目で前年と比較して数値が悪くなっている。朝食について市が保護者などにアンケートをしているが、朝食にごはんやパン以外のものを食べたり、主食を食べないという人も増えている。食推や地域の方々の力を借りながら、間違った食事の仕方をしないよう、また朝食にはごはんがいいと言ってもらえるように啓発に力を入れていきたい。</p>
栗生田会長	<p>40 歳以上は働き方の問題も含めて、体あつての労働だと思うのでそういった観点からも食事の大切さを伝える施策をお願いしたい。</p>
山本委員	<p>資料No.2 スマートミール認証制度について、地産地消推進店認証制度があるのに、もう一つこれをやるのはこっちにも認証制度、あっちにも認証制度という感じがする。私たちが買物に行く時に、様々な認証制度があると何を見ていいのかわからない。別の方法で推進店の活用をやってはどうか。</p>

大泉主査	新しく説明したスマートミール認証制度について、食育の推進と農業の振興に関する計画の中の地産地消推進店と連携して自然と健康になれる食環境を整備するという取組の中に位置づけている。スマートミール認証制度については、基本的に地産地消推進店の中でさらに健康な食事を提供しているお店を認証するもので、地産地消推進店とは全く別個にならないようにしていく。9月に認証式があるが、そこでまた大々的に周知されるので、その場面でも併せて地産地消推進店であることもピーアールしていきたい。
栗生田会長	他になければ、以上で終了させていただきますが、いかがでしょうか。異議なしと認め、終了いたします。
山寄委員	～農業部分の質疑～ ボナペティシールはなぜ2種類あるのか。1種類の方が使う人も楽し、経費もかからないのではないか。
渡辺農林課長	平成25年から34年の10年間の予定で2種類を商標登録をしているので、もうしばらくこの2つのデザインを使用したい。
金子委員	資料No.1の10ページに青年就農者育成等支援事業とあるが、なぜこの研修を三条で出来なかったのか。その立ち上がりを教えて欲しい。
渡辺農林課長	本計画の上位計画である三条総合計画の中で、産業として成り立つ農業を発展させると共に、外部からの移住促進というのが大きな目的の一つとなっている。その中で価格決定力を持つ農業者の育成ということで、市内又は近郊の技術力を持つ先進的農業者への研修だけでなく、販売力、経営力、その他総合的に先進事例に取り組んでいる茨城県の久松農園、長野県のトッピーバーといった先進的な農業者のところに派遣して販売力、経営力等を育成するため立ち上げたものである。
山寄委員	県内、市内の農業者は先進的ではなかったということか。
渡辺農林課長	より先進的な全国展開している農業者に委託したということである。
佐藤委員	農業委員会で秋田県に視察に行ってきた。今、子どものアレルギーの関係で米粉が売れており、そこでパスタやマカロニなどあらゆるものをコンビニや大手スーパーと提携して販売していると聞いた。市では子どもたちのアレルギーに対する問題をどのように捉えているのか。
大泉主査	子どもたちのアレルギーとなると給食の部分になり、教育委員会の案件か

	<p>と思う。アレルギーの問題に関しては、市の栄養士や調理場に派遣された県の栄養士が保護者から聞き取りをし、しっかりと対応しているところである。</p> <p>～農業部分の意見～</p>
星野委員	<p>県外の先進地などに派遣しなくても、地元農家を有効に使い、地元農業の振興になるところに派遣したり、お金を使ってはどうか。</p>
渡辺農林課長	<p>本事業は大きく2つある。一つは価格決定力のある農業者の育成、もう一つは地域農業の維持促進である。地域農業の維持というのは、トップを育てながら地域農業を維持発展させていくという視点がある。上位計画に基づく価格決定力のある農家の育成ということで市場等に左右されず、自ら価格決定力を生み出せる農業者を育成するのが大前提であったことから、全国展開、知名度のある農業者に派遣して自ら価格決定ができる農業者に育成し、その方を三条市に呼び込もうとしたものである。先ほど説明した事業等を活用しながら地域農業の維持発展、地場農産物の地産地消の観点から努めていく。</p>
小林委員	<p>その部分については総合計画ではC評価になっている。この計画も上位計画とリンクしているものなのだから、先ほどの就農の部分や先進地視察の部分は出た意見を基に、検証をしていってはどうか。</p>
渡辺農林課長	<p>本計画につきましても中間年、上位計画である総合計画も中間年であるので、いただいた意見を基に今後の事業について検討していきたい。</p>
小林委員	<p>地域農業の理解促進ということで、プランターを使ったり、家庭菜園コースという事業をまんま塾に委託していると思うが、この申込みの目標は何人だったのか。</p>
渡辺農林課長	<p>特に目標は設定しておらず、人数制限はなく受け入れ可能な方を募集した。</p>
小林委員	<p>月岡小学校に行ったらバケツに稲が植えてあった。地区公民館のきっかけの一步事業でも公民館の畑などでいろいろな野菜を作っており、沢山の人が集まっている。目的は農業の体験ではなくいろいろな目的があると思うが、これ以上に成果を挙げているところもある。農林課の事業として公民館と連携して、より広げること可能だと思うので、ワンテーブルで連携を組むことを考えてはどうか。</p>
藤家農林課長補佐	<p>様々な団体が農業体験をやっているのは事実である。農協やサンファームなどもその一つ。そういった様々な団体がいろいろな形でやっていて、そこと連携していくのがまんま塾の主旨になると思う。まんま塾の取組の中で、</p>

	各団体の農業体験をひとつのパンフレットにまとめるということを行っており、様々な形で市民の方が農業に触れる機会を広げたいと考えている。
小林委員	それを全体把握されているか。
栗生田会長	事業を行政が 100%把握したり、100%指揮をとるのではなく、様々な形や方法で食育や農業を盛り上げていこうという動きを作ることがこの審議会の役割ではないか。ゆるりとながって、みんなで頑張ろうという雰囲気を作っていくのがこの会議の良いところである。
山寄委員	まんま塾の委員会の部長をしている。まんま塾は食育をベースに健康推進をする団体になる。プチ畑プロジェクトは地産地消がベースになり、農林課の話を受けて取り組んでいるが、市役所から投げかけられて他に手を上げる団体はいないと思う。
山寄委員	青年就農者の育成で研修先事業者はどこかで見直しを行うのか。
渡辺農林課長	今のところ、研修先事業者は2社の委託でいきたい。
金子委員	資料No.1の18ページ、持続可能な農業基盤の確立にあるように米価が下落し、どんどん辞めていく人が多くなり、私たちも頑張らなければいけないと感じている。何かしら一つでも形になる策を打っていただきたい。
渡辺農林課長	具体的なものが提示できるように頑張ってください。
栗生田会長	研修先というのは慣行農法でということか。農業に様々な方法、規模がある。価格決定力にも様々な規模がある。小さい規模でも価格決定力を持っている方もいるし、市場に出さないで消費者と直接つながることで経営を成り立たせる方もいて、いろいろな在り方がある。農業の規模、農法、価格決定力も様々な考え方を持って多角的に検討することをお願いしたい。
渡辺農林課長	価格決定力のある農業者とは、業として成り立つ農業者を育成する目的がある。参考までにどういう規模かというと、生活に必要な年間所得 400 万円以上、経営に必要な面積としては 2.7ha というのが価格決定力を持つ農業者の数値目標である。市場を介さないで自らの意思で価格を決定できる戦法を習得する目的で先進的農業者に派遣をしているところである。
栗生田会長	農業単体として経営を成り立たせることも大事なことであるが、社会一般にこういった人材があふれていて、どこに足りないのか。過不足をリンクさ

	<p>せたらどうなるか、面白いことが化学反的にできるのではないかという農福連携の団体を見てきた。そういったことも視野に入れて農業経営の在り方について検討していただけると、20年後、30年後の農業の在り方が見えてくるのではないかと思う。</p>
渡辺農林課長	<p>将来的には大きな問題を抱えているので、地域農業の多様な農業者の確保を進めたい。</p>
星野委員	<p>資料No.1の18ページにモデルとなるネットワーク型組織の構築と出ている。年間400万円も収入を得るような農業形態をどうしたら良いか、行政や農業者だけでなく、一般の人を組織に入れて消費者の意見も取り入れていかなければならないのではないか。農業者が朝から晩まで汗かいて働いて、儲からないようでは、それを聞いた子どもは農業をしようと思わない。</p>
栗生田会長	<p>農業のことを農業者だけに任せるのではなく、こういった場で農業のことを真剣に考えていくのもいいのではないか。</p>
高橋(豊)委員	<p>学校現場では、キャリア教育という形で職業体験を行っている。小学校なので直接的ではないが、米や野菜作り体験をしている。先日は米農家さんから、米や農業は文化だという話をいただいた。子どもたちが文化に関わるような体験をすること、田植えの時に土に触った感触や裸足で入った感触は実際にやらないとわからない。人間としての喜びや楽しさを味わった経験はすごく大事だと思う。大島の方から果物の講話をいただいた時に、果樹には土作りが大事であるという話を聞き、学校の勉強とは違った追求の仕方、子どもたちは農業が楽しいものであると感じたようだ。就業や儲けることは学校では教えられないので、農業に限らず、職業として大人がやっていることの楽しさ、そこを頑張っているということを伝えていきたい。</p>
栗生田会長	<p>今の小学生が大人になる時に、今ある職業の半分は無くなると言われていいる。農業が単体で生き残ることは難しいと考えており、今ある他の職業と農業をどうリンクさせるかが課題である。又は農業をやるが、それをいかにネットワーク化させるかという、社会構造そのものを新しく構築していく時代になるのではないか。食べること、土を作ること、文化を創ることはどんな社会でも変わらない。そういった点でも審議会での議論が重要である。</p>
山本委員	<p>2つ教えて欲しい。まず1つ目はボナペティシールについて、以前は健幸マイレージの取組の中で集めて景品の交換ができていたが、広報で景品の交換は終わったという記事を見た。健幸マイレージが終わった時点でボナペティシールの取組も終わったと思っていた。私の認識不足かもしれないが、も</p>

	<p>っと周知してもらいたい。</p> <p>もう1つは、農産物のテキスト化について、特産農産物をインターネットにあげたとあるが、我が家にインターネットはないので、特産農産物をインターネットにあげる意義が分からない。その意義と効果を教えてもらいたい。</p>
藤家農林課長補佐	<p>ボナペティシールの新しい取組についてはこれから周知をしていくところである。今後、ボナペティシールを集めた方に、地産地消推進店において無償で三条産農産物等を景品として提供し、集客を上げ、そこでまた買い物をしてもらい、そのお店のファンになってもらうということを考えている。</p> <p>テキスト化については、まだ目標には達していないが、食の部分と関わってくると思っている。生産場所、健康への効果、調理方法といった食と農とを少し意識してもらうためにホームページに載せているものである。</p>
山本委員	紙では見れないのか。
藤家農林課長補佐	現在はホームページ上のみである。
山本委員	今は何でもインターネットでことが終わっているが、私は家にインターネットをつないでいない。いろいろな情報が入ってくるが、自分の手元に残したくてもペーパーレスのため残せない。広報等をもっと活用してもらいたい。
星野委員	漬物などの加工品にもボナペティシールが貼ってあるがいいのか。
藤家農林課長補佐	申請すれば貼っても良いことになっている。
栗生田会長	他になければ、以上で終了させていただきますが、いかがでしょうか。異議なしと認め、終了いたします。

イ 成果指標の目標値の設定について（資料No.4について長谷部係長が説明）

	<p>～質問及び意見～</p>
栗生田会長	<p>直播とICTについて、直播にも乾田直播と湛水直播など技術があると思うが、どの様な直播をするとコスト低減になるのか。ドローンを使ってと説明があったが、使って何が低減になるかをもう少し説明して欲しい。</p>
長谷部係長	<p>直播栽培は、カルパーコーティング直播、鉄コーティング直播などいろいろメニューがあるが、使用する機械と農業者の技術によるところが大きいと考えている。どれが一番良いとは言えない。</p>
栗生田会長	<p>その農法でやれば、コストダウンになるという方針で推進しているのか。</p>

長谷部係長	そうである。ドローンは、ラジヘリに比べ費用が安く、一回作業を覚えさせれば短時間で自動的に散布してくれ、コストを低減し、作業時間も短縮ができる。
佐藤委員	直播栽培について、私は下田地区で鉄コーティングでやっている。生産コスト低減とあるが、下田地区では八木上の辺りでは水温が低いため直播栽培できない。水温が上がるまで待っていると、刈り取り時期が11月まで延びてしまう。八木下で何箇所か直播をやっているが、八木上は無理である。
金子委員	直播栽培について、資料に書いてある1万6千アールという面積はほぼ栄地区ではないか。直播は土壌の条件が良くないとできない。限られた場所ではできないと思う。我々がなぜ直播をやるかということ、コスト低減もあるが、一般の栽培もあるので、それを直播と組み合わせることによって少人数で行えるというのが最大の目的である。
渡辺農林課長	御意見ありがとうございました。直播は水温、土壌条件、労働力の差が影響する。また、技術的なこともあるかもしれないので、地域がどうこうではなく1つの案として推進していきたい。コスト低減と省力化技術という大きなくりの中で、条件の良いところでは直播栽培を推進してもらいたいと考えている。
阿部副会長	昔ラジヘリでの農薬の散布について安全性が問題になって無くなったようだが、また今はラジヘリやドローンでの散布を行っている。安全性はどうか。
栗生田会長	ラジヘリの技術的な事故ではなく農薬の安全性ということで良いか。
渡辺農林課長	農薬の安全性ということでは、指定登録農薬を用いて除菌と殺虫を行っている。十分安全性は考慮されていると考えている。
栗生田会長	他になければ、以上で終了させていただきますが、いかがでしょうか。異議なしと認め、終了いたします。

(5) その他（村上健康づくり課長）

次回の審議会は10月に開催予定

6 閉 会 午後3時30分